

報道関係者各位(企業情報)

2020年1月4日

ファンケル 島田和幸社長 年頭訓示 「自分たちで考え、行動する」 思い定め、志高く一步を

株式会社ファンケルの代表取締役社長 CEO 島田和幸は 2020 年 1 月 4 日、年頭にあたりグループ従業員への訓示を行いましたのでご報告いたします。



株式会社ファンケル
代表取締役 社長執行役員 CEO
島田 和幸

大きなパラダイムシフト。自ら考え行動する時代へ

新年明けましておめでとうございます。

2019 年は、キリンホールディングス株式会社と資本業務提携を行い、創業者の池森さんが取締役を退任されるという、大きな変化の年となりました。

私たちはまさに今、このパラダイムシフトに対応できるかが問われています。「何が正しいのか」、「何をすべきなのか」、「新しい価値観はどうあるべきか」など、あらためて自ら考え行動しなければならない時代になったのです。

価値観が変わった今、社会課題解決など「不」を解消する事業展開やお客様を想う心、「正直品質。」の姿勢といった経営理念を根底に、常に進化していかなければなりません。

「私たち自らが変わることができるか」、「ファンケルの未来を自分たちで切り拓いていくことができるか」、「人ではなく、自分がやる」と、思い定めてください。

私たちに求められていることは、志を高く持ち、周りをよく見る、よく聞くこと。そして自分たちで考え、自分たちで行動することです。今年もファンケルらしく、志高く、NEXT—FANCLへと一步を踏み出しましょう。

創業 40 周年の節目、ファンケルが目指すこと

2020 年当社が目指すことは三点です。一つ目に 20 年度を最終年度とする中期経営計画「実行 2020」の最終目標(連結売上高 1,400 億円、連結営業利益 180 億円、ROE13.5%)を必ず達成します。二つ目に 2020 年、創業 40 周年を契機に、さらにファンケルブランドを磨きます。三つ目に 2030 年、次の 10 年に向け歩みをはじめます。グローバル化と環境変化への対応に、ALL—FANCLで取り組みます。

これら三つの実現と遂行のために、まず複数の事業と販売チャネルを持つ当社の強みを最大化できるビジネスモデルを考え直し、実行します。チャネルごとのお客様特性を踏まえ、どの製品あるいはカテゴリをお勧めしていくか、成長性や収益性が見込めるビジネスモデルを考えていきます。

次に、新しい海外事業の成長モデル作りに本腰を入れて着手します。当社にとって、海外市場はますます重要なマーケットになります。今年の訪日外国人数の目標は 4,000 万人。羽田空港をはじめ日本の玄関口も整備が進みます。また、中国や東南アジア諸国では、経済成長により中間層の所得が伸びており、海外旅行者数が伸びています。2020 年にますます進む「グローバル化」と「アジアマーケットの変化」は私たちの大きなビジネスチャンスとして注視し、流れを捉えていく必要があります。

最後に、キリングroup各社とのシナジーを形にしていきます。昨年末までに、どのような取り組みを、いつまでに実行していくかを概ね決めました。交流の輪もどんどん広がっています。今年は、共同研究を進め、お互いのブランドの強みを活かした新製品を発売していきます。

「ALL—FANCL, ONE—FANCL」で未来を切り拓く

ファンケル化粧品は、40 周年を通じて記念製品を上市するなど、お客様へ感謝をお伝えし、将来へ期待を寄せていただけるよう盛り上げていきます。

サプリメント事業は、スター製品の育成だけでなく、販売チャネル別の製品開発へとステージを進めます。さらに、今年「パーソナルサプリメント」を発売します。当社だからこそ実現できる製品やサービスを通じて、お一人おひとりに合わせた健康づくりをご提案していきます。

青汁事業も本腰を入れて仕掛けます。当社の青汁の強みである、栄養価と機能性の高い「ケール」の価値を、国内外に広めていきます。

アテニアは、国内の売上げを伸ばすだけでなく、海外での展開にスピード感をもって取り組みます。ボウシャは、これまでの枠にとらわれず販路を広げ、よりグローバルに展開していきます。

各販売チャネルについてです。通信販売は 40 周年の今年、多くのお客様と接点を持てるチャンスです。お客様との絆をさらに深めるチャネルへと進化させます。直営店舗は、今年ファンケルの旗艦店舗「ファンケル 銀座スクエア」をリニューアルします。国内外への情報発信基地として、より新しい空間づくりを目指します。卸販売は、昨年発売した「流通専用サプリメント」の売上げの最大化に取り組みます。

また、今年千葉工場の隣接地に「マイルドクレンジングオイル」の専用工場を新設します。早期の安定稼働と生産量増強に着実に取り組みます。

創業 40 周年の大切な節目の 2020 年、次の 10 年、2030 年に向けて「ALL—FANCL, ONE—FANCL」で頑張りましょう。

本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先

株式会社ファンケル 社長室 広報グループ

TEL:045-226-1230 FAX:045-226-1202 / <https://www.fancl.jp/>